

大古
衣服
考稿



全

服部元彦

服部文庫
イ 17
2238



所成神名奧疎神次奧津那^サ整佐毘古神次奧津甲斐^サ
羅神次於投^サ其右手之手纏所成神名邊疎神次邊津那^サ整佐
毘古神次邊津甲斐^サ又^サ羅神^{云々}又紀日本紀を引いて云の同本
一書^サ即投其杖且謂岐神又投其帶是謂長道船神又
投其衣是謂煩神又投其禪是謂開嚙神又投其履是謂
道敷神^{云々}とあるこれ抄物も又さる初有り云々古語
於道石室段又^サ登織之源起於神代也とありその登織のことハ
則記須佐之男命乃殺大宜津比賣神故所殺神身生物於頭
生^サ登織^{云々}又紀^サ且時佐食神實已死矣唯有其神之履化為
牛^サ一^サ顧上生^サ登織^{云々}とあり又織の事ハ記石室^サ天

照大神坐忘服屋而令織神御衣之時^{云々}又紀^同又見^{天照大神}
方織神衣居齋服殿^{云々}とあるちとそ物も又え多る初有り
この外も於所々又見え多る上も引る如く^{衣服}此のここれ
先^ハ已^ハ見え多るハ登織のこと也天地の初の時よりあり
う^クて^テ衣服の状い^ハち^ハも^ハと^ハ考^ルる^ハま^ハる^ハ神の状ハ決^テ河神^ハ
さ^クて^テ神^ハ決^テ長^クて^テ指^ハの^ハ先^ハま^ハる^ハと^ハ推^量ら^ル
その萬葉集^{卷五}遠等咩良河遠等咩佐備周等可羅多麻手
多^サ母^サ等^サ尔^サ麻^サ可^サ志^サ云^々とある哥の言心を由^ルてこの多母等^サとハ
脛^ノ上^ノの^サち^リを^サ云^々と^ハ今^ラタ^モト^ト云^々古^ハハ^ハ神^ノの^サ先^ノ方^ヲハ^ハ手^ノ末^ノ
と^ハ云^々リ^ト記^段國^ノ讓^ハ千^ノ引^ハ石^ノ敬^ハ手^ノ末^ノ而^テ云^々と^ハあり^ハ手^ノの^サ先^ノ

妙

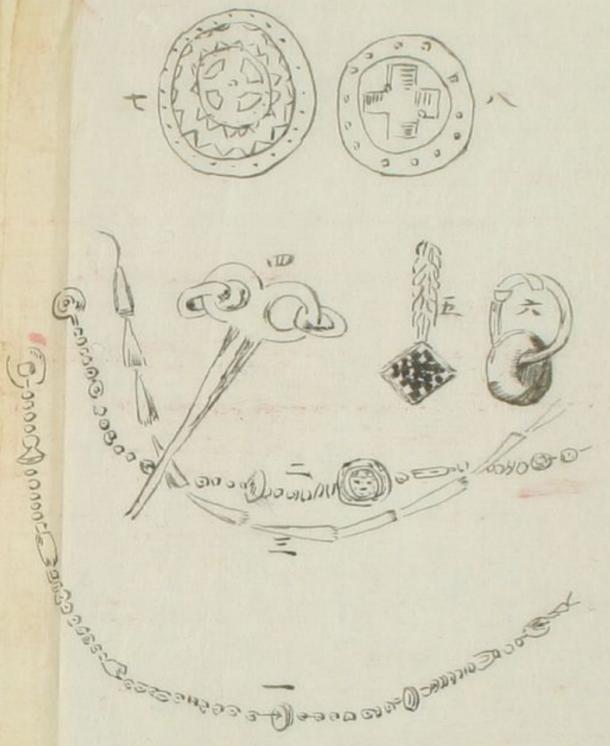
○すては雄果の玉
 飲吐肥古敷多病
 喉は女伽摩鳴那産
 鳴純イ云い見元
 多れに代は袴を
 重し着るなり之れ
 別を云い單し着
 袴着る裳は服を
 有りしなり

これよりて男は
 女は禪をば
 さうしき

評傳の如く女の衣は物も我もせしむるとも
 此れ禪よりんその何れをいふやうに
 伊和那岐余の着たる裳は物も我もせしむるとも
 一もく曳く物たるを前へ引上げて
 又腰裳と云ふは或は云ふは腰裳を
 小の帯も此を腰裳と云ふは帯の裳
 ありあつて腰のちうよの纏子裳を
 身イの裳のすまといは物も我もせしむるとも
 ちうさう古き図をいふは世の裳服を
 女は禪をばさうしき

④

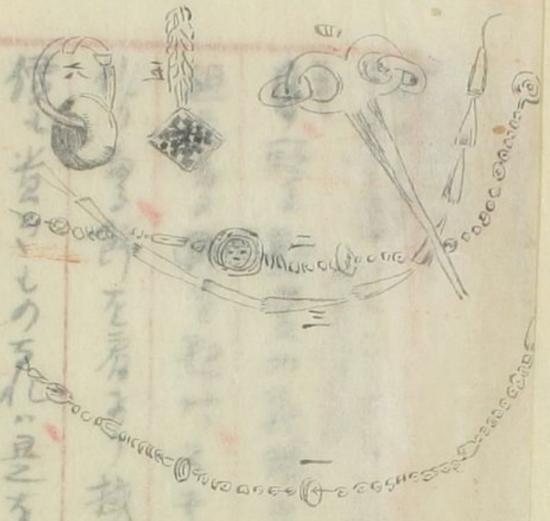
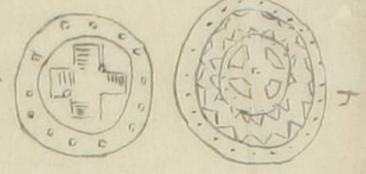
さくおはひは池谷奉命日所終比遠西伊陀
 をさめ下す見えすまも多し早も他も多し
 信は此者ハ言事比や直ひく護西後を約め
 一幅より二幅より幅の随ひいと長き物
 の被衣カキヤスちよの如く終り被て衣の上を
 見ゆさて其ハ代り男女共よ人よ誰を
 隠治料の服と見え多し辨とありこい
 禪は此何れ云ふは後世の禪と云ふはつ
 或は云ふは麻被引カ布利を多し
 終りて載る物さうしきと云ふはこ



む冠を礼服にせし
 わりの...
 伊那那岐命大御吉吉記
 又記其頭所懸て五百
 残りて所しう垢ゆり
 曲玉の圓と云ふ物
 物も懸て纏て飾り
 八左の丸... 英國装束
 飾り... 腕飾を
 其他の人...

のアウガスタス
 上... 者ア、ミニアス、殺されたるケリアスといひ、
 者、像
 自、頭、動、貴、の花、環、の、冠、を、乃、子、
 担、三、多、の、飾、を、懸、け、又、其、他、(圖) 圖、は、ま、ま、
 化、り、多、の、飾、を、着、り、懸、け、多、く、此、等、の、飾、は、其、量、目、し、
 價、も、貴、く、し、り、た、れ、は、是、を、好、む、る、も、の、一、の、宝、と、せ、り、
 一、種、く、と、戦、い、時、は、挿、し、多、く、地、の、丸、と、云、ふ、
 る、は、是、の、田、ち、り、是、を、以、て、兵、士、の、功、を、賞、と、せ、り、
 差、碍、き、し、其、仍、多、く、教、を、を、記、さ、る、の、時、
 ら、腕、飾、襟、飾、指、環、の、金、の、骨、板、お、り、婦、人、の、装、束、
 代、の、物、は、今、も、好、む、もの、を、稀、き、る、は、
 其、國、を、率、

と云ふて其
 形、今、も、残、り
 所、い、ら、ぬ
 リ、し、り、多、く
 あり、多、く、
 七、
 こと



腕飾 襟飾 指環の金の骨板
 物に合う針のものを
 一程と戦い時を挿し
 腕飾の金を骨板

ケリアスといひ 者の像
 襟の黄金の針金にて
 図に示す如く
 此等の飾は其量月し
 もの第一の宝とせり
 多き物もよく
 賞とせり
 兵士の
 時
 婦人の装束
 古
 其國を

と云ふ其
 形は
 所
 リ
 物
 七
 こと

其の玉を戴きし物ありしむ冠を礼服にせし
 後のことありと云ふ
 即其後珍珠之玉緒母申良庄云し又記し其頭所懸る玉五
 筒传统之類とありて
 る物多きは陸奥口車社所藏曲玉の図と云ふもの物
 えあり其状(四)図の如くは
 して其飾を云ふこと西洋より大古なり
 治平史にもしるる云くおらの竹物箱に其の四よりトルケスと
 云黄金の針金を進こ多き物をけ腕飾も又腕飾腕飾を
 け多き兵士の肖像ありこれハニエ其他の人といへり

ん(四)才六種この物質より括るる玉の頭飾きこの
小なる玉を集めて連ねる如くは丸れと実ハ細き切
きを連ねるものなりされどよく少玉を連ねるもの
多きもの如し切玉を連ねるものなり才六極簡に括るる
頭飾之其製法玉麻末之其高半よん面白を彫りし
野鄙の赴向なり此は丸れ玉なるものなり
古物なり才三頭飾なり獸類の角をよみ如くは丸れと
貝殼の才をわらぬきて連ねるものなり此は
く阿比人の用ぬるものなり才二黄銅のなり
才八金を括るるものなり此は墳塚より出るるものなり

辰の胸より多くあり此は飾として衣服の上を掛るもの
なり此の形は十字形を孔しせるなり耶蘇紀より以後の
物なりとありしはこれと十字形の形にたゞ飾の模極
は用ぬるのみなり字なりとして用ぬるものなり
これらを考ふる所の西洋の衣服に我々の胸の飾なり
るやありしは於ての書をよく見ると彼の国の上の所
明らなるものなり此は彼の国の成をまろく見し
してアブをまろくしよるをせし國の如く堅く玉を飾りし我
々の所のまろくしよるをせし上代の衣服の色にまろくは
みぬは玉の黒しは衣をまろくは取装ひ具つ鳥胸にけし

